

Taiwan Aerospace Industry Forum 2015に参加して

AIDC (Aerospace Industrial Development Corporation : 漢翔航空工業(株)) 主催による同フォーラムが2015年12月21日から2日間、台北にて開催された。筆者は講演者の1人として招待され、日本の航空宇宙産業について講演を行った。以下に同フォーラムの概要について報告する。

1. AIDCとは

今回のフォーラムの主催者であるAIDCは、1946年9月に、南京で空軍傘下の組織として設立された航空工業局をルーツとしている。その後、中国の内戦で中国国民党が敗退したことから台湾に移り、1954年7月に空軍技術局として再編された。その後、1969年3月にAIDC (Aero Industry Development Center) として改組され、1996年7月に台湾経済部の下に漢翔航空工業として国営化された後、完全民営化は2014年8月に行われた。

主な製品として、マルチロール戦闘機のF-CK-1、ジェット練習機のAT-3、レシプロ練習機T-CH-1などの国産開発機やライセンス生

産の戦闘機F-5E、ヘリコプターUH-1や、エンジン分野のライセンス生産ではCT-7、HTF700、TFE731などが挙げられる。

戦闘機の開発・製造が一区切りついた後は、そこで培った製造開発技術を使い、民間航空機・エンジンなどの製造に進出することを決め、ヘリコプターのシコルフスキー社、民間機のボーイング社、エアバス社のほか、エンジン部品加工でGE社、ロールス・ロイス社などのサプライヤーとなっている。また、MRJでは、スラット、フラップ、昇降機など5アイテムの開発製造を担当している。2014年の売り上げは249億台湾ドル(約840億円)で従業員3,600人を擁している。



主催者AIDC Liao会長 (中央)、筆者 (左3人目)、ほか基調講演者

2. フォーラム概要

今回のフォーラムの主旨は、AIDC創立70周年を記念して行われたもので、今後の台湾航空宇宙産業の発展を進めるにはどうしたらよいか、というテーマで開催された。参加者は台湾經濟部、国防部に加え、エアラインの中華航空、エバ航空や、台湾大学、Boeing社、GE社などのほか、現地地下請け企業など約100名が参加して行われた。

主催者のAIDC Liao会長の挨拶に始まり、来賓として經濟部工業局長Wu氏などが祝辞を述べた。第1部はAIDC Hsu社長のほか、中華航空社長、国防部次長、元AIDC会長、台湾大学教授などの講演が続いた。ここでの主な意見は、台湾政府は半導体などに力を入れているが、安全保障にも直結する航空産業の育成にもっと力を入れるべきだ、具体的には研究開発などに政府が支援すること、防衛の仕事を増やしてほしいというものである。第2部、3部はIndustry 4.0についての意見交換で、シンシナティ大学教授、工業技術院副院長、精密機械研究所会長やAIDC会長、經濟部次

長、東台精密機械社長が演台に立った。第4部は、海外から招聘したBoeing材料構造の専門家、GE社中国リーダーが講演を行った。

3. 筆者の講演内容

筆者は、日本のサプライチェーンの状況を含んだ航空宇宙産業の概要を講演した。最初は航空宇宙産業の売り上げなどの統計データで、2つ目は戦後の日本の航空宇宙産業の発展を防衛と民間航空の両面に関して、また、機体、エンジン、装備品の状況についても説明した。3つ目は日本におけるサプライチェーン展開で、自動車部品製造業界などからの新たな参入者や地方政府と中央政府からの支援について例を説明した。4つ目は航空宇宙産業の課題を民間、防衛、装備品について述べ、最後にまとめとした。時間の制約もあり、特に質問は出なかった。

4. 所感

台湾の航空宇宙産業は防衛から民需に転換してきたが、近隣諸国との差がなくなってい



会場の様子

る、むしろ、遅れているという切迫感が伝わってきた。中国本土にはBoeingやAirbusの工場あるいは関連工場が稼働しており、また、韓国も超音速練習機を売り込む、民間航空機の下請けも着々と行っているなど、台湾から見ると大きな脅威と映っている。台湾は半導体に国として力を入れているようで、航空産業には予算がなかなか振り向けられない実態が

あるようだ。そこで、AIDC社の設立70周年の設立を記念して、台湾政府に意見要望するという趣旨に見えた。さらに、Industry 4.0を下請け会社とともに展開するといった趣旨の会合も開かれていたが、生憎、中国語での講演であったため十分聴講できなかったことが残念であった。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 国際部長 板原 寛治〕